

在宅医療に係る医療機能の 把握のための調査

医療機関

令和8年度
岡 山 県

目 次

I 調査概要	1
1 調査の概要	1
(1)調査目的	1
(2)調査方法	1
(3)回収結果	1
(4)報告書の見方	1
II 調査結果	2
1 調査結果の概要	2
2 基本情報	4
(1)施設種別	4
(2)所在地	5
(3)訪問診療対応市町村	7
(4)主たる診療科	8
(5)診療報酬の施設基準の届出状況	10
(6)対応可能な診療行為	11
3 在宅医療に従事する医師数	12
4 退院支援	13
(1)退院支援の実施	13
(2)退院時カンファレンスに参加してもらう職種	14
5 急変時の対応	15
(1)往診の実施	15
(2)往診を実施した回数(延べ回数)	16
(3)病状急変時の入院先の確保	17
(4)他医療機関の入院先の場合の連携医療機関数	18
(5)他医療機関の入院先の場合の連携医療機関の所在地	19

6 看取り	20
(1)看取りの実施	20
(2)看取りを実施した実患者数	21
7 日常の療養支援	23
(1)訪問診療の実施状況	23
(2)小児訪問診療の実施状況	23
(3)将来(10年後を想定)に向けた訪問診療の実施状況	24
(4)上記を選んだ理由	25
(5)在宅患者訪問診療の実施状況	27
<在宅患者訪問診療料Ⅰ 実施状況>	27
<在宅患者訪問診療料Ⅱ 実施状況>	31
<在宅患者訪問診療料Ⅰ・Ⅱ 算定対象者居所>	33
(6)居宅療養管理指導料算定状況	34
<居宅療養管理指導料Ⅰ>	34
<居宅療養管理指導料Ⅱ>	36
<介護予防居宅療養管理指導料>	38
<訪問薬剤管理指導>	40
(7)在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の実施状況	41
<在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料1>	41
<在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料2>	43
<在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料1・2 算定対象居所>	44
<訪問栄養食事指導>	44
8 在宅医療を今後更に推進していくための課題	45

I 調査概要

1 調査の概要

(1)調査目的

医療機関ごとの訪問診療の実施可能件数や訪問診療への参入意向等について実態調査を行い、在宅医療の現状を把握する。調査結果については、令和8年度に実施する第9次岡山県保健医療計画の中間評価に際し、現状を把握するための指標とする。

(2)調査方法

- 1) 調 査 地 域 岡山県内全域
- 2) 調 査 対 象 者 医療機関 684 か所
- 3) 調 査 方 法 郵送配布、郵送または web による回答
- 4) 調 査 期 間 令和8年1月30日～令和8年3月12日

(3)回収結果

	回収数		回収率
医療機関	調査票回答 207	472	69.0%
	Web 回答 265		

(4)報告書の見方

- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100%とならない場合がある。
- ・図表中の「n」は number of cases の略で、回答数総数または分類別の回答者数を示す。各比率はnを100%として算出している。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100%を超えることがある。
- ・表内において、**上位1位**、**上位2位**、**上位3位** には色付けをしている。
- ・クロス集計の分析軸(表側項目)は不明・無回答があるため、分類ごとのn数を合計しても全体のn数と一致しないことがある。

Ⅱ 調査結果

1 調査結果の概要

◆ 在宅医療において対応可能な診療行為について(p.11)

対応可能な診療行為について、「点滴の管理」が最も多く、次いで「酸素療法」、「睡眠時持続陽圧呼吸療法」、「尿カテーテル」、「疼痛の管理」、「褥瘡の管理」などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「褥瘡の管理」は県南西部、津山・英田保健医療圏で多く、「人口肛門の管理」は県南西部保健医療圏で多い傾向にある。また、「睡眠時持続陽圧呼吸療法」は津山・英田保健医療圏で少ない傾向にある。

◆ 在宅医療に従事する医師の年代、常勤・非常勤別について(p.12)

在宅医療に従事する医師について、常勤数は「50～59 歳」で最も多く、次いで「60～69 歳」、「70 歳以上」、「40～49 歳」などの順となっている。非常勤数は「40～49 歳」との回答が最も多く、次いで「30～39 歳」、「50～59 歳」などの順となっている。

◆ 退院時カンファレンスに参加してもらう職種について(p.13～14)

退院支援を実施している医療機関は、全体の 47.1%である。

退院時カンファレンスに参加してもらう職種について、「病院看護師」との回答が約半数と最も多く、次いで「MSW」、「ケアマネジャー」、「病院リハ職」などの順となっている。

◆ 病状急変時の対応について(p.15～19)

往診を実施している医療機関は、全体の 46.6%である。

病状急変時の入院先の確保の有無について、確保がある医療機関は 54.0%、ない医療機関は 40.3%と確保がある医療機関がやや多い。保健医療圏別にみると、津山・英田保健医療圏で低い傾向にある。

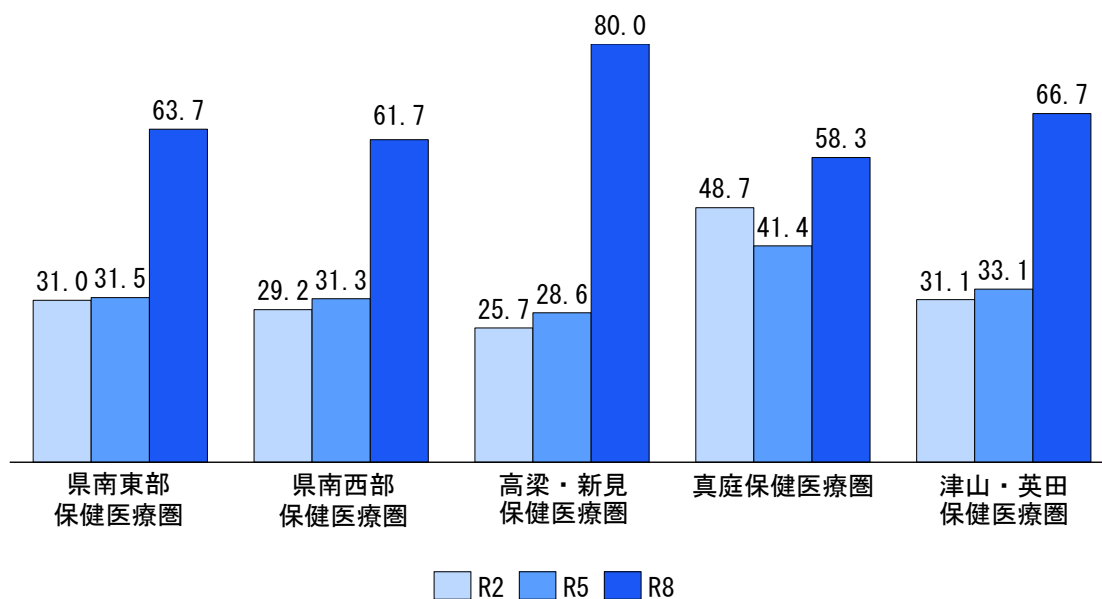
連携医療機関数は、「1医療機関」が最も多く、次いで「2医療機関」、「5医療機関以上」、「3医療機関」などの順となっている。

◆ 看取りの実施について(p.20～22)

看取りの実施について、実施がある医療機関は 41.1%と半分以下である。看取りを実施した実患者数は「3～5人」が最も多く、次いで「6～10 人」、「1人」、「11～20 人」などの順となっている。

◆ 訪問診療について(p.23～24)

R8 調査においては、R2、R5 年度よりも訪問診療実施割合は大きく増加している。



将来に向けた訪問診療の実施状況について、「現在も実施しており、今後も継続する」との回答が約半数と最も多く、次いで「現在は実施しているが、今後は未定」、「現在は実施していないが、今後は未定」などとなっている。「現在は実施しているが、今後は中止する」との医療機関も一定数存在している。

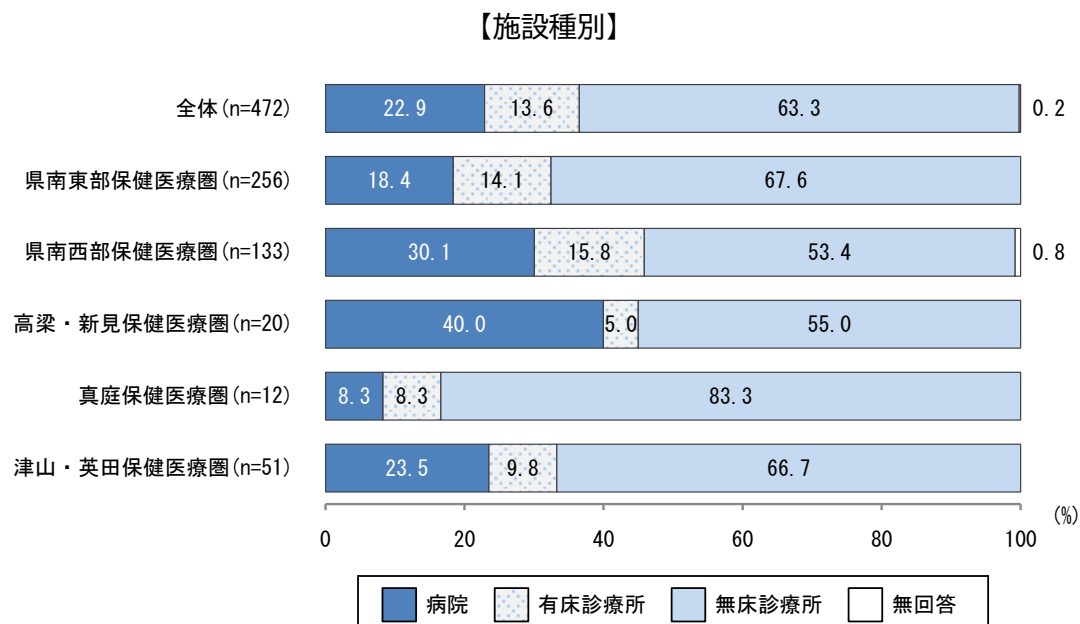
◆ 在宅医療を今後更に推進していくための課題について(p.45～46)

在宅医療を今後更に推進していくための課題について、「医師の確保」が最も多く、次いで「看護師の確保」、「診療報酬の引き上げ」、「夜間や医師不在時、患者の病状の急変時等における診療の支援を行う医療機関の確保」、「独居高齢者の患者とその家族等への対応」、「24 時間対応体制を維持するための連携医療機関の確保」などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「医師の確保」、「24 時間対応体制を維持するための連携医療機関の確保」、「夜間や医師不在時、患者の病状の急変時等における診療の支援を行う医療機関の確保」、「病院や診療所との在宅療養患者に関する情報の共有」との回答は津山・英田保健医療圏で多い傾向がある。

2 基本情報

(1)施設種別

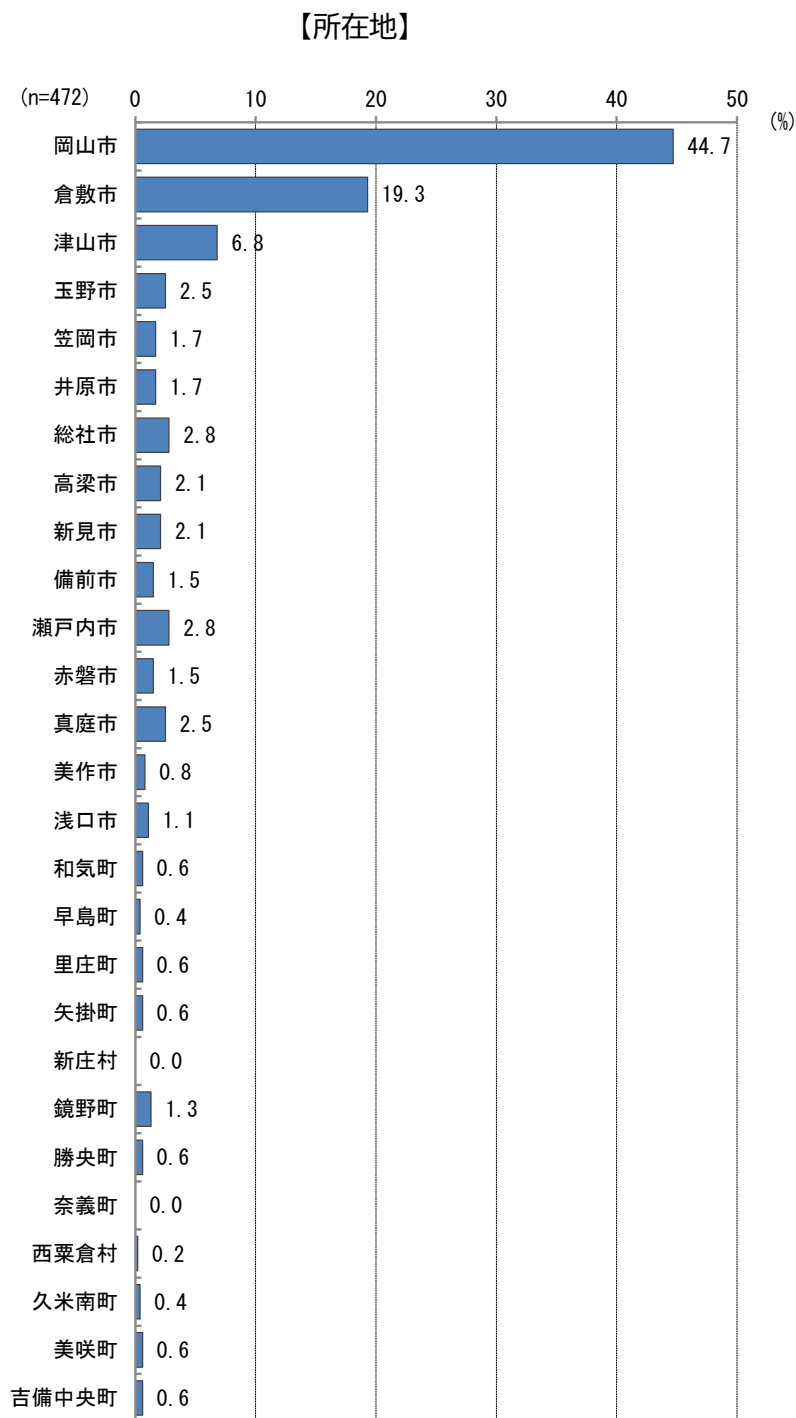


施設種別について、「病院」との回答が 22.9%、「有床診療所」との回答が 13.6%、「無床診療所」との回答が 63.3%となっている。

保健医療圏別にみると、「病院」との回答は県南西部保健医療圏で約 3 割、「無床診療所」との回答は県南東部、津山・英田保健医療圏で 6 割台後半と高くなっている。

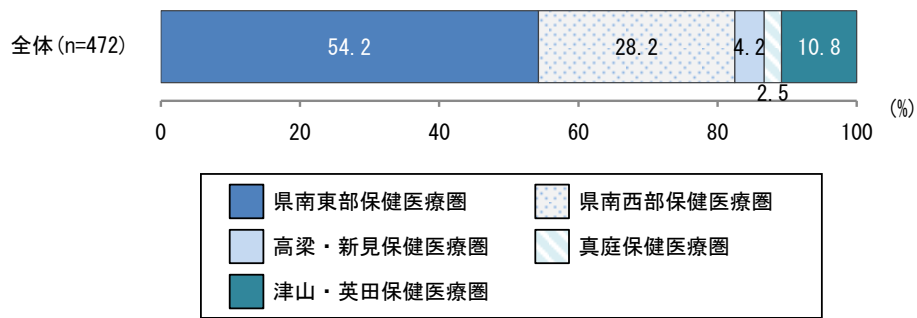
※20 人以下の回答者の回答傾向は記述しないこととする（以下同じ）。

(2)所在地



所在地について、「岡山市」との回答が44.7%と最も高く、次いで「倉敷市」(19.3%)、「津山市」(6.8%)などの順となっている。

【保健医療圏】



保健医療圏について、「県南東部保健医療圏」との回答が 54.2%、「県南西部保健医療圏」との回答が 28.2%、「高梁・新見保健医療圏」との回答が 4.2%、「真庭保健医療圏」との回答が 2.5%、「津山・英田保健医療圏」との回答が 10.8%となっている。

(3)訪問診療対応市町村

【訪問診療対応市町村】

		(%)									
		岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市	新見市	備前市
全体 n= 472		43.4	23.1	7.0	4.2	2.5	2.5	5.3	2.3	2.5	2.1
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	75.0	7.4	-	6.6	-	-	2.0	-	-	3.9
	県南西部保健医療圏 n= 133	9.0	67.7	-	2.3	9.0	9.0	15.0	0.8	-	-
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	2.0	-	64.7	-	-	-	-	-	-	-
		瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市	浅口市	和気町	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村
全体 n= 472		4.2	3.6	2.5	1.1	2.1	0.8	2.8	1.5	0.8	0.2
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	7.8	6.3	-	-	-	1.6	2.3	-	-	-
	県南西部保健医療圏 n= 133	-	-	-	-	7.5	-	5.3	5.3	3.0	-
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	91.7	-	-	-	-	-	-	8.3
	津山・英田保健医療圏 n= 51	-	2.0	2.0	9.8	-	-	-	-	-	-
		鏡野町	勝央町	奈義町	西粟倉村	久米南町	美咲町	吉備中央町	無回答		
全体 n= 472		2.1	1.7	0.6	0.2	0.8	1.9	1.3	10.4		
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	-	-	-	-	0.4	-	1.2	12.1		
	県南西部保健医療圏 n= 133	-	-	-	-	-	-	-	9.0		
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	-	-	-	15.0	-		
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	-	-	-	-	-	8.3		
	津山・英田保健医療圏 n= 51	19.6	15.7	5.9	2.0	5.9	17.6	-	9.8		

訪問診療対応市町村について、「岡山市」との回答が43.4%と最も高く、次いで「倉敷市」(23.1%)、「津山市」(7.0%)、「総社市」(5.3%)などの順となっている。

(4)主たる診療科

【主たる診療科】

		(%)								
		内科	呼吸器内科	循環器内科	(消化器内科) (胃腸科内科)	腎臓内科	脳神経内科	(糖尿病内科) (代謝内科)	血液内科	皮膚科
全体 n= 472		78.0	7.4	11.4	12.5	1.9	3.2	5.3	1.3	4.7
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	74.2	7.8	11.3	10.2	2.7	3.1	4.7	1.6	3.9
	県南西部保健医療圏 n= 133	78.2	9.8	12.8	17.3	1.5	3.8	6.8	0.8	6.8
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	90.0	5.0	10.0	15.0	-	-	10.0	5.0	10.0
	真庭保健医療圏 n= 12	91.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	88.2	2.0	11.8	13.7	-	3.9	3.9	-	2.0
		アレルギー科	リウマチ科	感染症内科	小児科	精神科	心療内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科
全体 n= 472		2.8	3.4	1.1	8.9	5.5	2.8	11.0	1.3	1.5
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	3.1	3.1	1.2	7.8	5.5	3.1	10.2	1.6	2.0
	県南西部保健医療圏 n= 133	3.8	5.3	0.8	9.0	4.5	2.3	9.8	0.8	-
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	5.0	-	20.0	10.0	-	30.0	-	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	-	8.3	-	-	16.7	-	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	-	-	2.0	9.8	7.8	3.9	9.8	2.0	3.9
		乳腺外科	気管食道外科	(消化器外科) (胃腸科外科)	泌尿器科	肛門外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	美容外科
全体 n= 472		0.8	0.4	2.1	3.2	2.1	3.6	10.6	1.7	0.2
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	0.8	0.4	1.2	2.7	2.0	3.5	9.8	1.6	-
	県南西部保健医療圏 n= 133	1.5	0.8	3.8	3.8	3.0	3.8	13.5	0.8	0.8
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	5.0	-	5.0	10.0	10.0	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	8.3	-	-	8.3	8.3	-	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	-	-	2.0	3.9	2.0	2.0	7.8	2.0	-
		眼科	耳鼻咽喉科	小児外科	産婦人科	産科	婦人科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科
全体 n= 472		4.9	2.3	0.2	3.0	1.1	1.9	8.9	4.2	2.1
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	5.1	1.6	-	3.5	1.2	1.2	8.6	3.1	2.0
	県南西部保健医療圏 n= 133	6.0	3.0	-	2.3	1.5	4.5	10.5	5.3	2.3
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	-	-	-	10.0	15.0	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	8.3	-	-	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	3.9	3.9	2.0	3.9	-	-	7.8	3.9	3.9

(%)

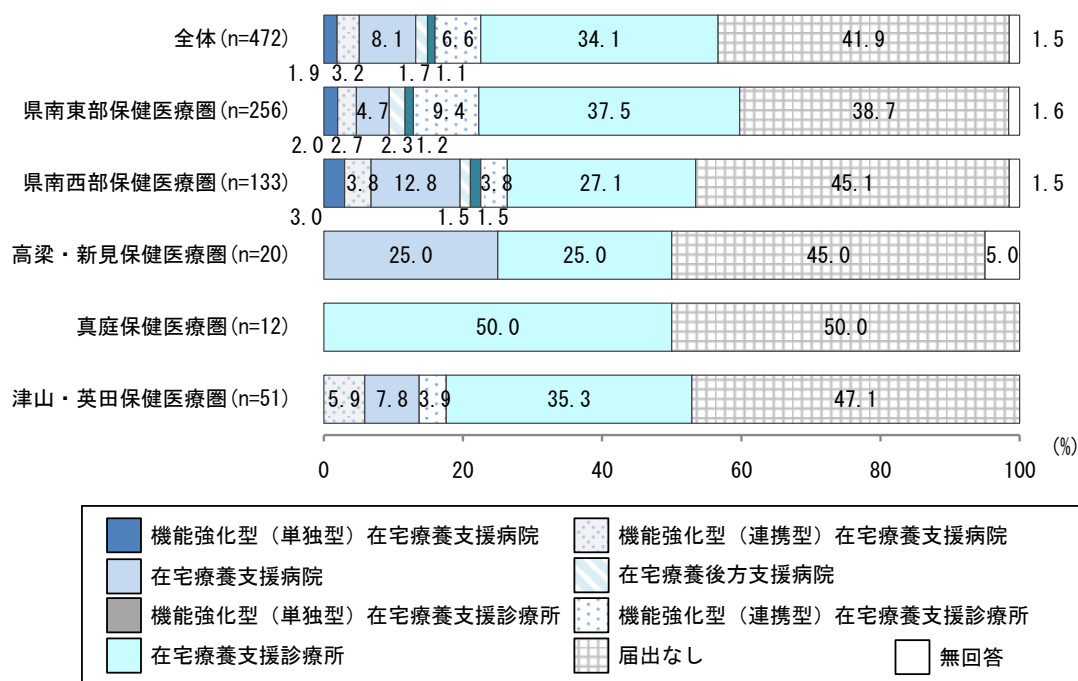
		病理診断科	臨床検査科	救急科	歯科	矯正歯科	小児歯科	歯科口腔外科	無回答
全体 n= 472		1.1	0.8	1.5	2.1	0.2	0.2	0.8	2.1
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	1.2	1.6	1.6	1.2	—	—	0.8	3.1
	県南西部保健医療圏 n= 133	0.8	—	1.5	3.0	—	—	0.8	1.5
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	—	—	—	10.0	5.0	5.0	—	—
	真庭保健医療圏 n= 12	—	—	—	—	—	—	—	—
	津山・英田保健医療圏 n= 51	2.0	—	2.0	2.0	—	—	2.0	—

主たる診療科について、「内科」との回答が78.0%と最も高く、次いで「消化器内科(胃腸科内科)」(12.5%)、「循環器内科」(11.4%)、「外科」(11.0%)、「整形外科」(10.6%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「内科」との回答が最も高くなっており、津山・英田保健医療圏では8割台後半と高くなっている。

(5)診療報酬の施設基準の届出状況

【診療報酬の施設基準の届出状況】



診療報酬の施設基準の届出状況について、「届出なし」との回答が41.9%と最も高く、次いで「在宅療養支援診療所」(34.1%)、「在宅療養支援病院」(8.1%)、「機能強化型(連携型)在宅療養支援診療所」(6.6%)、「機能強化型(連携型)在宅療養支援病院」(3.2%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「在宅療養支援診療所」との回答は県南東部、津山・英田保健医療圏で3割台半ばと高くなっている。

(6)対応可能な診療行為

【対応可能な診療行為】

		(%)							
		点滴の管理	尿力テール	酸素療法	褥瘡の管理	ろ（経皮経管又は養腸）	疼痛の管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養
全体 n= 472		67.4	51.7	63.6	49.8	40.5	50.2	34.5	27.3
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	63.7	48.0	60.2	43.4	38.7	47.3	30.1	25.8
	県南西部保健医療圏 n= 133	69.9	54.9	63.9	55.6	42.9	54.9	39.8	29.3
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	90.0	80.0	90.0	75.0	50.0	60.0	60.0	30.0
	真庭保健医療圏 n= 12	75.0	50.0	75.0	66.7	41.7	41.7	25.0	25.0
	津山・英田保健医療圏 n= 51	68.6	51.0	66.7	52.9	39.2	51.0	35.3	29.4
		人工肛門の管理	気管切開の管理	理人工呼吸器の管	人工膀胱の管理	胸腔（各種ドレナージ等）	輸血	腹膜透析	喀痰吸引処置
全体 n= 472		29.4	25.0	13.6	12.9	10.2	8.9	5.1	34.7
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	25.0	23.4	14.1	13.3	10.5	10.2	5.5	33.6
	県南西部保健医療圏 n= 133	35.3	28.6	14.3	14.3	10.5	6.8	6.8	38.3
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	45.0	35.0	20.0	15.0	10.0	5.0	5.0	45.0
	真庭保健医療圏 n= 12	33.3	25.0	—	16.7	—	—	—	25.0
	津山・英田保健医療圏 n= 51	29.4	19.6	9.8	5.9	9.8	11.8	—	29.4
		睡眠時持続陽圧呼吸療法	その他	該当なし	無回答				
全体 n= 472		53.0	0.6	19.1	4.4				
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	53.9	0.8	21.5	5.1				
	県南西部保健医療圏 n= 133	53.4	0.8	18.0	3.8				
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	60.0	—	10.0	—				
	真庭保健医療圏 n= 12	66.7	—	—	8.3				
	津山・英田保健医療圏 n= 51	41.2	—	17.6	3.9				

対応可能な診療行為について、「点滴の管理」との回答が67.4%と最も高く、次いで「酸素療法」(63.6%)、「睡眠時持続陽圧呼吸療法」(53.0%)、「尿力テール」(51.7%)、「疼痛の管理」(50.2%)、「褥瘡の管理」(49.8%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「点滴の管理」との回答が最も高くなっている。「褥瘡の管理」との回答は県南西部、津山・英田保健医療圏で5割台、「人工肛門の管理」との回答は県南西部保健医療圏で3割台半ばと高くなっている。また、「睡眠時持続陽圧呼吸療法」との回答は津山・英田保健医療圏で4割台前半と低くなっている。

3 在宅医療に従事する医師数

【在宅医療に従事する医師数】

		(人)							常勤 換算値
		29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	
全体	常勤数	101	106	174	186	185	185	922	227.14
	非常勤数	16.5	56.3	63	44.6	36.7	27.4	232.4	
県南東部 保健医療圏	常勤数	91	76	120	115	98	90	576	107.6
	非常勤数	8	33.8	35.6	27.1	15.5	18	131.9	
県南西部 保健医療圏	常勤数	3	17	30	53	62	55	219	91.29
	非常勤数	7	14	24	13	18	7.8	83.8	
高梁・新見 保健医療圏	常勤数	7	2	7	5	6	15	42	4.6
	非常勤数	－	－	－	1	1	1	2	
真庭 保健医療圏	常勤数	－	－	2	2	5	6	15	3.45
	非常勤数	1	3	－	－	－	－	4	
津山・英田 保健医療圏	常勤数	－	11	15	11	14	19	70	20.2
	非常勤数	0.5	5.5	3.4	3.5	2.2	0.6	10.7	

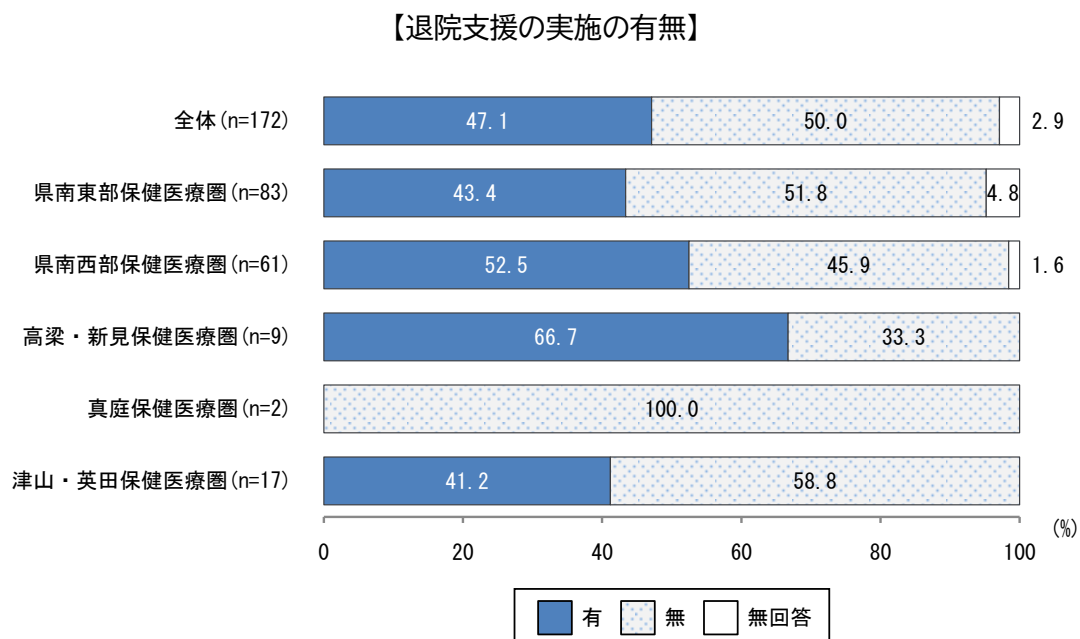
※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

在宅医療に従事する医師数について、常勤数は「50～59 歳」との回答が 186 人と最も多く、次いで「60～69 歳」、「70 歳以上」（ともに 185 人）、「40～49 歳」（174 人）などの順となっている。非常勤数は「40～49 歳」との回答が 63 人と最も多く、次いで「30～39 歳」（56.3 人）、「50～59 歳」（44.6 人）などの順となっている。

保健医療圏別にみると、常勤数では県南東部保健医療圏は「40～49 歳」との回答が 120 人、県南西部保健医療圏は「60～69 歳」との回答が 62 人、高梁・新見保健医療圏は「70 歳以上」との回答が 15 人、津山・英田保健医療圏は「70 歳以上」との回答が 19 人と最も多くなっている。非常勤では県南東部保健医療圏は「40～49 歳」との回答が 35.6 人、県南西部保健医療圏は「40～49 歳」との回答が 24 人と最も多くなっている。

4 退院支援

(1)退院支援の実施



退院支援の実施の有無について、「有」との回答が47.1%、「無」との回答が50.0%となっている。保健医療圏別にみると、「有」との回答は県南西部保健医療圏で5割台前半と高くなっている。

(2)退院時カンファレンスに参加してもらう職種

【退院時カンファレンスに参加してもらう職種】

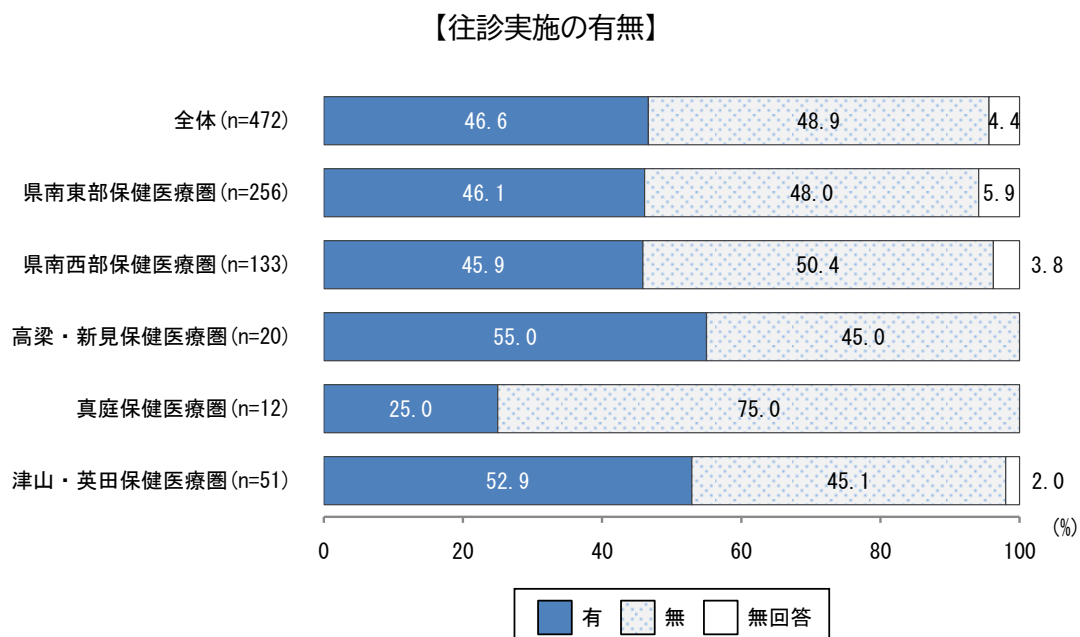
			病院主治医	病院看護師	MSW	病院リハ職	在宅主治医	在宅歯科医	在宅薬剤師	訪問看護師
			(%)							
全体		n= 172	37.2	47.7	45.9	37.8	13.4	1.2	8.7	28.5
保健医療圏別	県南東部保健医療圏	n= 83	32.5	44.6	43.4	32.5	14.5	1.2	9.6	24.1
	県南西部保健医療圏	n= 61	42.6	52.5	49.2	42.6	16.4	1.6	11.5	39.3
	高梁・新見保健医療圏	n= 9	44.4	66.7	66.7	66.7	11.1	—	—	33.3
	真庭保健医療圏	n= 2	—	—	—	—	—	—	—	—
	津山・英田保健医療圏	n= 17	41.2	41.2	41.2	35.3	—	—	—	11.8
			訪問リハ職	ケアマネジャー	管理栄養士	転（転院先の医師・看護師）	退（入所の施設職員）	その他	無回答	
全体		n= 172	19.8	40.1	17.4	9.3	25.0	7.0	50.6	
保健医療圏別	県南東部保健医療圏	n= 83	16.9	37.3	8.4	6.0	22.9	7.2	51.8	
	県南西部保健医療圏	n= 61	26.2	50.8	26.2	16.4	32.8	6.6	47.5	
	高梁・新見保健医療圏	n= 9	33.3	44.4	33.3	—	22.2	—	33.3	
	真庭保健医療圏	n= 2	—	—	—	—	—	—	100.0	
	津山・英田保健医療圏	n= 17	5.9	17.6	23.5	5.9	11.8	11.8	58.8	

退院時カンファレンスに参加してもらう職種について、「病院看護師」との回答が47.7%と高く、次いで「MSW」（45.9%）、「ケアマネジャー」（40.1%）、「病院リハ職」（37.8%）などの順となっている。

保健医療圏別にみると、県南西部保健医療圏で「病院看護師」との回答は5割台前半、「病院リハ職」との回答は4割台前半、「ケアマネジャー」との回答は約5割と高くなっている。

5 急変時の対応

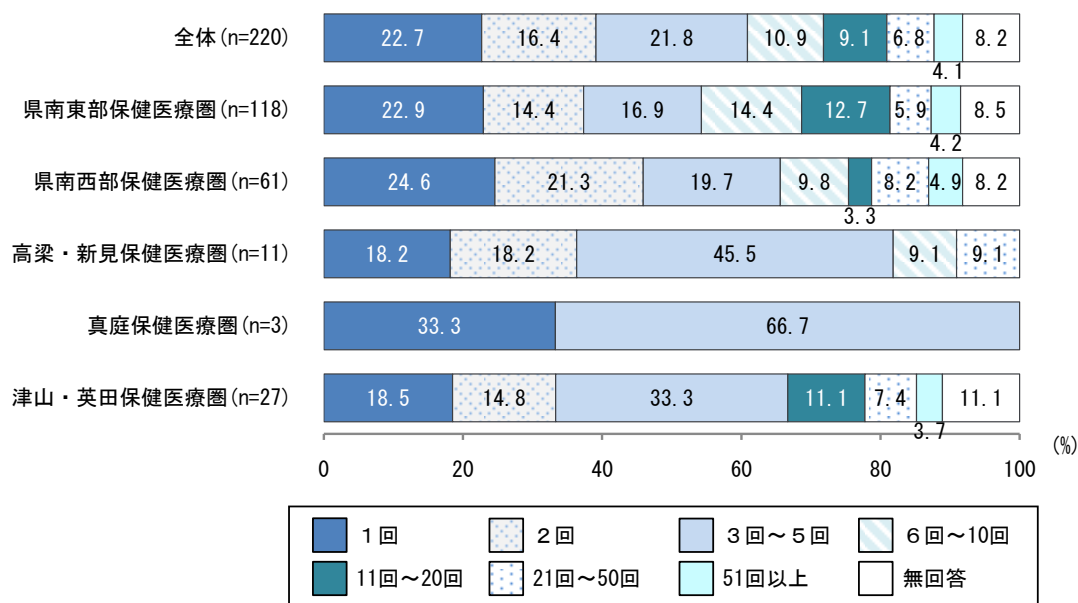
(1) 往診の実施



往診実施の有無について、「有」との回答が46.6%、「無」との回答が48.9%となっている。
保健医療圏別にみると、「有」との回答は津山・英田保健医療圏で5割台前半と高くなっている。

(2)往診を実施した回数(延べ回数)

【往診を実施した回数】

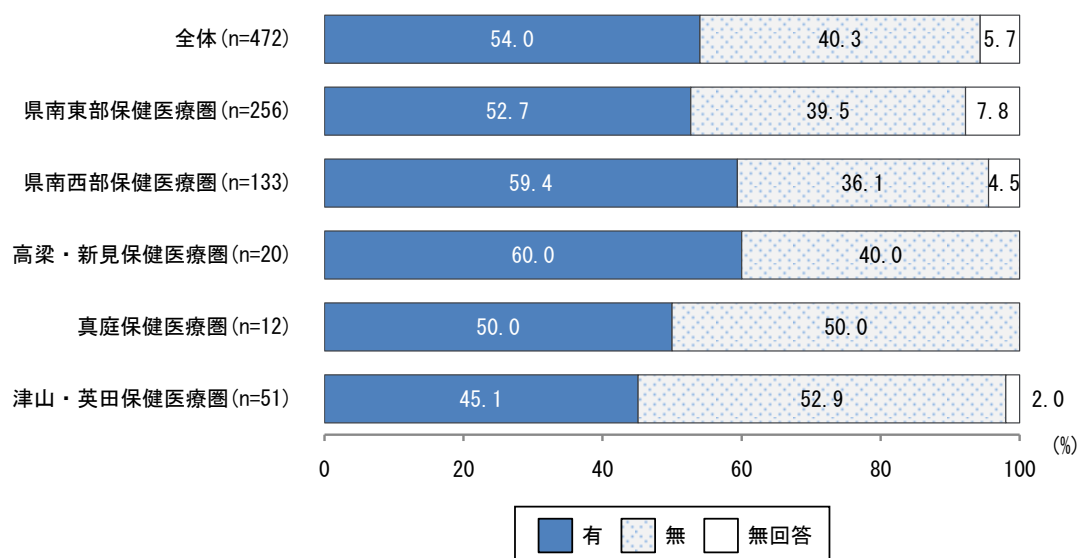


往診を実施した回数について、「1回」との回答が22.7%と最も高く、次いで「3回～5回」(21.8%)、「2回」(16.4%)、「6回～10回」(10.9%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「2回」との回答は県南西部保健医療圏で2割台前半、「3回～5回」との回答は津山・英田保健医療圏で3割台前半と高くなっている。

(3) 病状急変時の入院先の確保

【病状急変時の入院先の確保の有無】

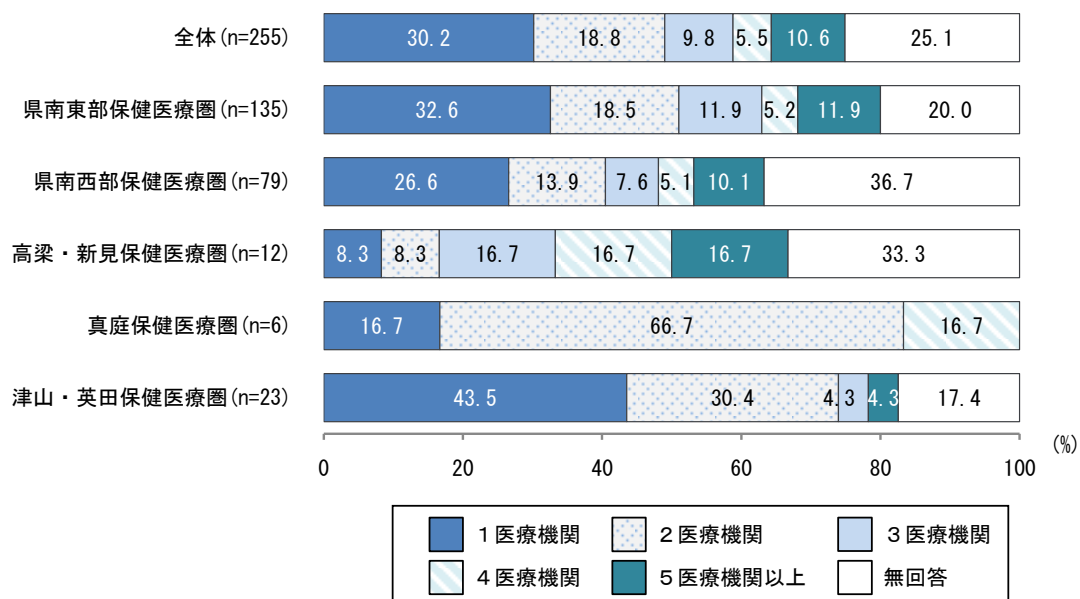


病状急変時の入院先の確保の有無について、「有」との回答が54.0%、「無」との回答が40.3%となっている。

保健医療圏別にみると、「有」との回答は県南西部保健医療圏で約6割と高く、津山・英田保健医療圏で4割台半ばと低くなっている。

(4)他医療機関の入院先の場合の連携医療機関数

【連携医療機関数】



連携医療機関数について、「1 医療機関」との回答が 30.2%と最も高く、次いで「2 医療機関」(18.8%)、「5 医療機関以上」(10.6%)、「3 医療機関」(9.8%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、津山・英田保健医療圏で「1 医療機関」との回答は4割台前半、「2 医療機関」との回答は約3割と高くなっている。

(5)他医療機関の入院先の場合の連携医療機関の所在地

【連携医療機関の所在地】

		(%)									
		岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市	新見市	備前市
全体 n= 472		19.9	10.8	3.2	0.8	0.8	0.6	1.1	1.3	0.4	0.8
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	34.8	2.0	-	1.6	-	-	-	-	-	1.6
	県南西部保健医療圏 n= 133	2.3	33.1	-	-	3.0	2.3	3.8	-	-	-
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	10.0	-	-	-	-	-	30.0	10.0	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	3.9	-	29.4	-	-	-	-	-	-	-
		瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市	浅口市	和気町	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村
全体 n= 472		1.1	1.7	1.3	-	-	0.2	-	-	0.2	-
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	2.0	3.1	-	-	-	0.4	-	-	-	-
	県南西部保健医療圏 n= 133	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	-
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		鏡野町	勝央町	奈義町	西粟倉村	久米南町	美咲町	吉備中央町	岡山県以外	無回答	
全体 n= 472		0.6	0.4	-	-	-	-	-	0.4	58.5	
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	-	-	-	-	-	-	-	-	57.4	
	県南西部保健医療圏 n= 133	-	-	-	-	-	-	-	0.8	59.4	
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	-	-	-	-	-	-	-	5.0	60.0	
	真庭保健医療圏 n= 12	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	
	津山・英田保健医療圏 n= 51	5.9	3.9	-	-	-	-	-	-	62.7	

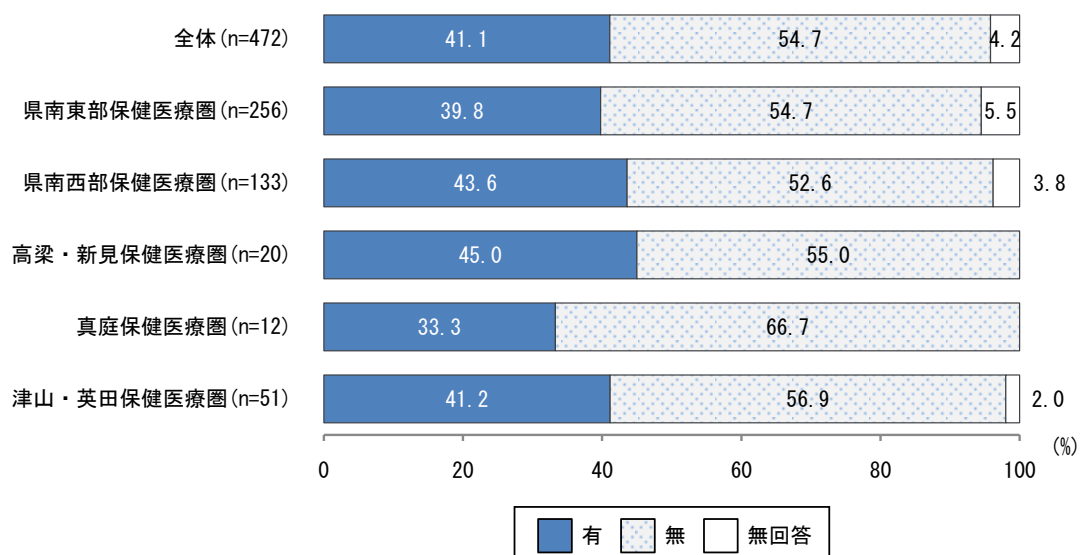
連携医療機関の所在地について、「岡山市」との回答が19.9%と高く、次いで「倉敷市」(10.8%)、「津山市」(3.2%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「岡山市」との回答は県南東部保健医療圏で3割台半ば、「倉敷市」との回答は県南西部保健医療圏で3割台前半、「津山市」との回答は津山・英田保健医療圏で約3割と高くなっている。

6 看取り

(1) 看取りの実施

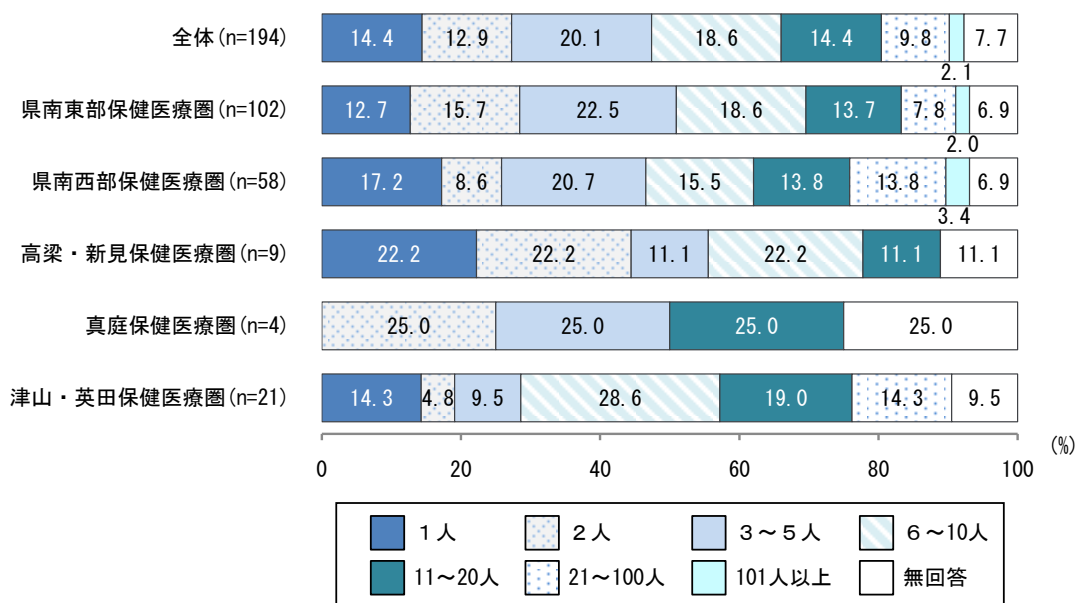
【看取り実施の有無】



看取り実施の有無について、「有」との回答が41.1%、「無」との回答が54.7%となっている。
保健医療圏別にみると、看取り実施の有無に大きな差はみられない。

(2)看取りを実施した実患者数

【看取りを実施した実患者数】



看取りを実施した実患者数について、「3～5人」との回答が20.1%と最も高く、次いで「6～10人」(18.6%)、「1人」、「11～20人」(ともに14.4%)、「2人」(12.9%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「2人」との回答は県南東部保健医療圏で1割台半ば、「6～10人」との回答は津山・英田保健医療圏で2割台後半、「11～20人」との回答は津山・英田保健医療圏で1割台後半と高くなっている。

		1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	11 人以上	無 回 答
うち介護医療院 n= 194		1	1	-	-	-	1	191
保 健 医 療 圏 別	県南東部保健医療圏 n= 102	1	1	-	-	-	-	100
	県南西部保健医療圏 n= 58	-	-	-	-	-	1	57
	高梁・新見保健医療圏 n= 9	-	-	-	-	-	-	9
	真庭保健医療圏 n= 4	-	-	-	-	-	-	4
	津山・英田保健医療圏 n= 21	-	-	-	-	-	-	21
うち介護老人保健施設 n= 194		6	2	3	1	3	1	178
保 健 医 療 圏 別	県南東部保健医療圏 n= 102	3	2	2	-	1	-	94
	県南西部保健医療圏 n= 58	2	-	1	1	2	1	51
	高梁・新見保健医療圏 n= 9	1	-	-	-	-	-	8
	真庭保健医療圏 n= 4	-	-	-	-	-	-	4
	津山・英田保健医療圏 n= 21	-	-	-	-	-	-	21
うち老人ホーム n= 194		24	14	5	9	35	27	80
保 健 医 療 圏 別	県南東部保健医療圏 n= 102	14	11	1	4	21	11	40
	県南西部保健医療圏 n= 58	8	3	1	3	6	11	26
	高梁・新見保健医療圏 n= 9	-	-	1	1	2	1	4
	真庭保健医療圏 n= 4	-	-	-	-	-	1	3
	津山・英田保健医療圏 n= 21	2	-	2	1	6	3	7
うち自宅 n= 194		35	22	13	16	29	22	57
保 健 医 療 圏 別	県南東部保健医療圏 n= 102	22	9	4	8	18	12	29
	県南西部保健医療圏 n= 58	9	8	6	6	6	9	14
	高梁・新見保健医療圏 n= 9	3	3	1	-	-	-	2
	真庭保健医療圏 n= 4	-	1	1	-	-	-	2
	津山・英田保健医療圏 n= 21	1	1	1	2	5	1	10
「在宅ターミナルケア加算」 実算定者数 n= 194		25	22	12	10	37	32	56
保 健 医 療 圏 別	県南東部保健医療圏 n= 102	12	13	3	6	21	18	29
	県南西部保健医療圏 n= 58	9	7	8	3	9	9	13
	高梁・新見保健医療圏 n= 9	2	2	-	-	1	-	4
	真庭保健医療圏 n= 4	1	-	-	-	-	-	3
	津山・英田保健医療圏 n= 21	1	-	1	1	6	5	7

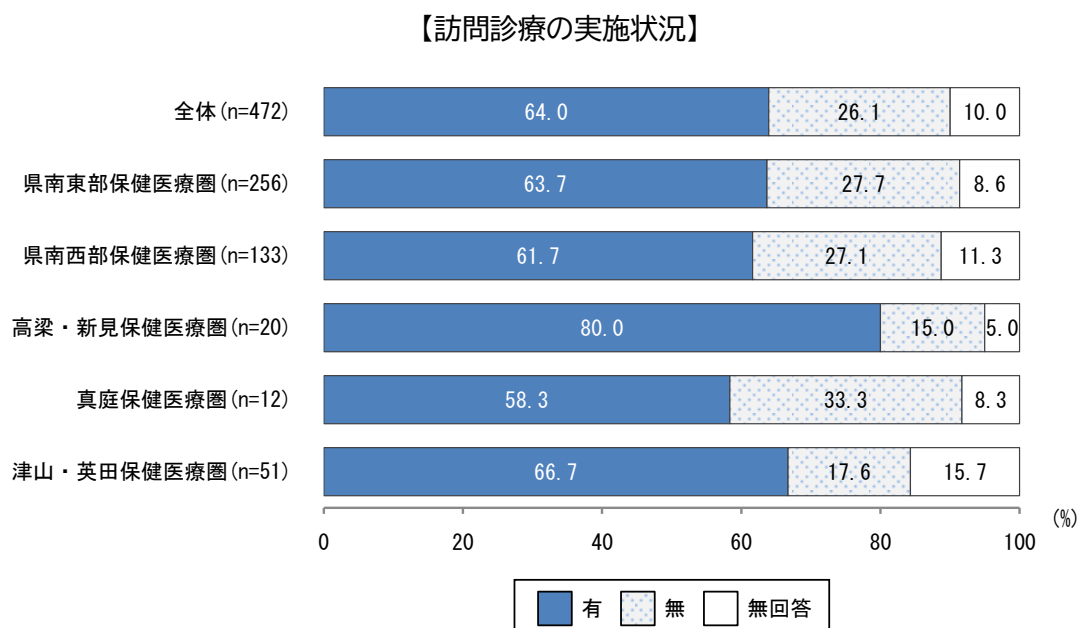
※総数未記、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

うち介護医療院は「1人」、「2人」、「11人以上」との回答が1医療機関、うち介護老人保健施設は「1人」との回答が6医療機関、「3人」、「5～10人」との回答が3医療機関、うち老人ホームは「5～10人」との回答が35医療機関、「11人以上」との回答が27医療機関、「1人」との回答が24医療機関、うち自宅は「1人」との回答が35医療機関、「5～10人」との回答が29医療機関、「2人」、「11人以上」との回答が22医療機関となっている。

看取り実患者数のうち、「在宅患者訪問診療料 在宅ターミナルケア加算」実算定者数は、「5～10人」との回答が37医療機関、「11人以上」との回答が32医療機関、「1人」との回答が25医療機関、「2人」との回答が22医療機関となっている。

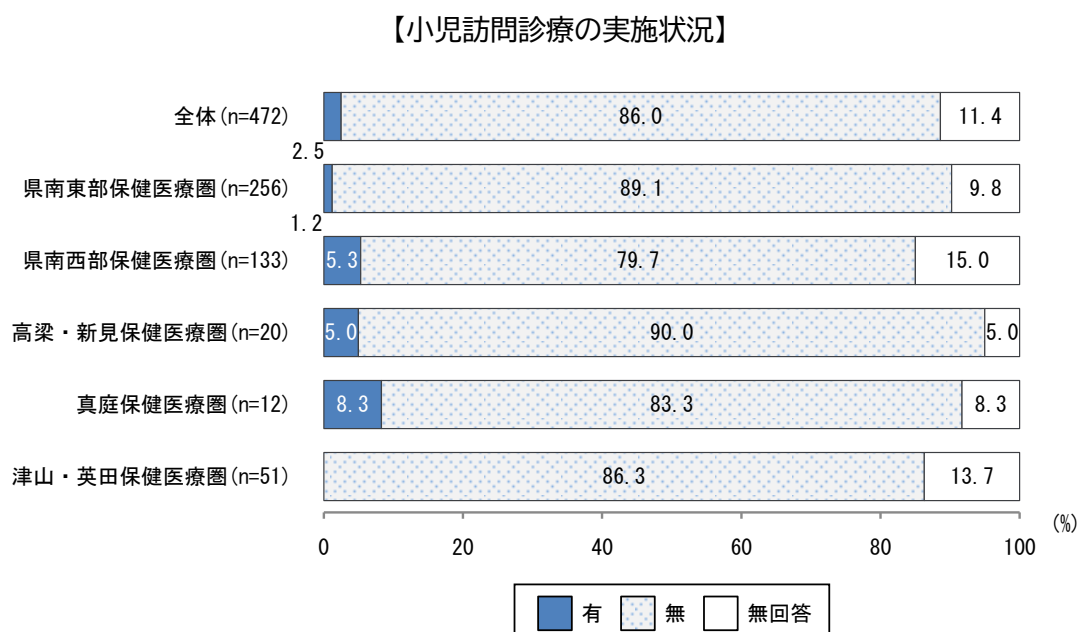
7 日常の療養支援

(1) 訪問診療の実施状況



訪問診療の実施状況について、「有」との回答が64.0%、「無」との回答が26.1%となっている。
保健医療圏別にみると、「有」との回答は津山・英田保健医療圏で6割台後半とやや高くなっている。

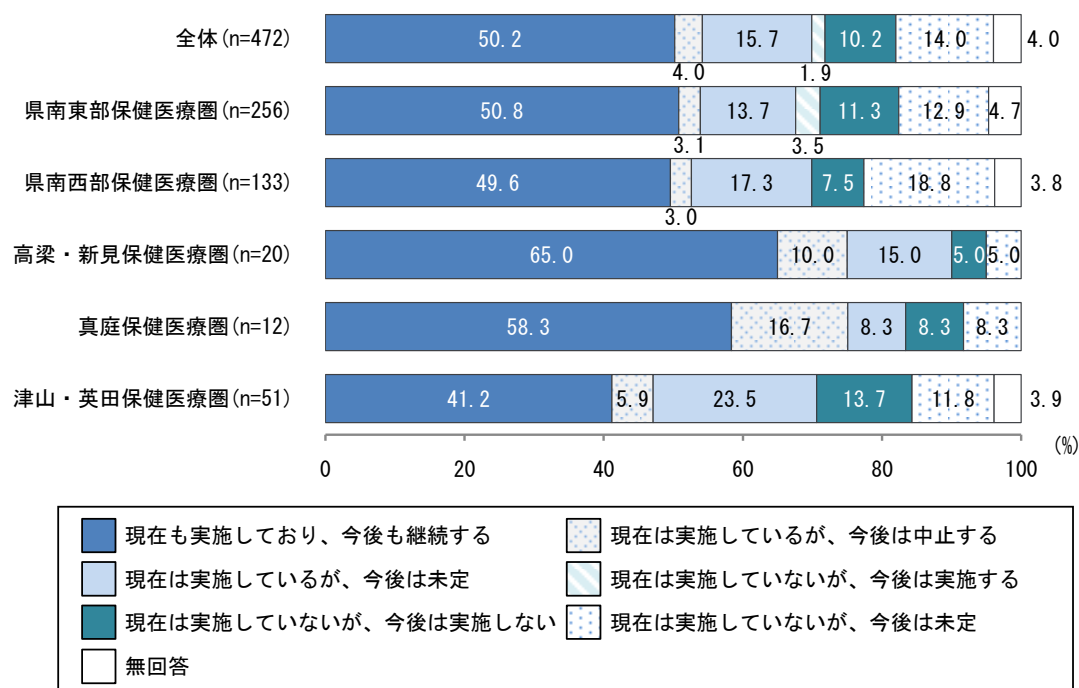
(2) 小児訪問診療の実施状況



小児訪問診療の実施状況について、「有」との回答が2.5%、「無」との回答が86.0%となっている。
保健医療圏別にみると、「無」との回答は県南東部、津山・英田保健医療圏で8割台後半と高くなっている。

(3)将来(10 年後を想定)に向けた訪問診療の実施状況

【将来に向けた訪問診療の実施状況】



将来に向けた訪問診療の実施状況について、「現在も実施しており、今後も継続する」との回答が50.2%、「現在は実施しているが、今後は中止する」との回答が4.0%、「現在は実施しているが、今後は未定」との回答が15.7%、「現在は実施していないが、今後は実施する」との回答が1.9%、「現在は実施していないが、今後は実施しない」との回答が10.2%、「現在は実施していないが、今後は未定」との回答が14.0%となっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「現在も実施しており、今後も継続する」との回答が最も高くなっているが、津山・英田保健医療圏では4割台前半と低くなっている。「現在は実施しているが、今後は未定」との回答は津山・英田保健医療圏で2割台前半、「現在は実施していないが、今後は未定」との回答は県南西部保健医療圏で1割台後半と高くなっている。

(4)上記を選んだ理由

現在も実施しており、今後も継続する	2040年末では在宅医療の需要が増すとされており、その供給を担います。
	他に訪問診療を実施している医療機関が無いため。地域のニーズが高いため。
	かかりつけ医機能の更なる強化を目指しているため。
	オンライン診療ではなく、高齢者の方については、実際に訪問診療の必要性を感じるから。
	通院中の患者及び、自院の診療エリアの事はそのエリア内で、完結すべきと考えるため。
	当院は岡山県北部の過疎地域のため、ひとり暮らしの高齢者が多く、今後も訪問診療が必要になると思われるため。
	人口の高齢化が進むなか、通院困難な高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために今後も継続していくことが必要。
	高齢化社会が進んでいく中で、地域の方の医療の幅をかかりつけ医として今後も支えていきたい。
	地域包括ケア入院料算定のため必須。
	当院の医療圏内は超高齢化・過疎化が進んでおり、独居や老老介護が増加している。そのため、住み慣れた環境で安心して医療を受けることが可能なため、今後も訪問診療の実施を継続する。
	医師が若年齢のため、身体的に問題がないため。
	独居の高齢者や高齢者のみの世帯が増える需要のある地域のため。
	在宅医療を必要とする関連した介護施設が複数あるため。
	高齢化に加え、慢性疾患や介助が必要な患者が増えることが予想される。慢性疾患等で長期に治療が必要となっても、入院することなく自宅で医療を受けられることで、医療費の削減にもつながると思うため。
	地域の病院として、在宅療養をサポートしていくため。
	訪問診療を実施している機関がないため。
	社会的ニーズの高まり、必要性を感じるため。
	対応可能な限り、地域医療を持続していくため。
中止する	病院全体の方向性として、在宅医療の推進を目標としているため。
	住み慣れた地域・環境にて包括的な医療・福祉が受けられるよう「高齢者救急・在宅医療」を支えるため。
	医師が高齢のため。
	閉院予定。
現在も実施しているが、今後は未定	医師一人で対応しており負担が大きいため。
	患者家族都合による訪問診療依頼が多すぎるため。
	医師高齢化のため。
	訪問診療の枠組が厳しくなり、24時間対応必須、主治医対応必須など、ほぼ1人で診療を行っている当院では現実的に対応できなくなります。地域において、訪問診療の必要度は増加しているが、現状以上の物を求められると対応困難となるため。
	往診医師の確保。
	人材不足。
	体力的に不可能。
	後継者がいない。
	時間もマンパワーも不足。
	現体制維持ができるかどうか不透明なため。
	施設入所が増えているから。
	医師の働き方改革。
	外来および時間外検査の増加が見込まれるため。
	受診患者数が多く、訪問診療を行うことが困難。

実施する	現在はいない	患者の希望による。
	今後はいない	訪問リハを検討中です。
	現在はいない	具体的な取り組みは決めていないが検討していきたい。
	今後はいない	可能な範囲で対応したい。
実施しない	現在はいない	高齢のため対応不可。
	今後はいない	眼科・産婦人科・整形外科のため。
	現在はいない	午前と午後の診療時間の間（昼休み）に検査等をしており、時間的に無理。
	今後はいない	人員不足。
実施していない	現在はいない	診療体制不十分。
	今後はいない	外来診療で訪問診療に時間をさけない。看護師、医師が少ないためできない。
	現在はいない	近隣に在宅医療のクリニック、病院が多数あるため。
	今後はいない	一人で365日24時間体制条件の在宅医療は精神的にきついが、医師の増員は経営的に無理。
	現在はいない	現在は在宅療養後方支援病院としての役割、高齢者救急の受け入れに注力するため。
	今後はいない	年齢との関連。
実施していない	現在はいない	医師・看護師他、訪問看護に従事する人員の確保が困難であり、今後の改善の見通しが立たないため。
	今後はいない	

(5)在宅患者訪問診療の実施状況

<在宅患者訪問診療料Ⅰ 実施状況>

うち在宅患者訪問診療料Ⅰ

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	厚生労働大臣が定める疾患等	
							別表第7の実施状況	別表第8の実施状況
全体	10757	70	132	382	554	9290	669	939
県南東部	5753	17	53	254	280	4820	403	483
県南西部	3594	52	77	97	207	3173	185	339
高梁・新見	153	1	—	3	9	130	4	5
真庭	136	—	—	—	3	133	17	3
津山・英田	1121	—	2	28	55	1034	60	109

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

在宅患者訪問診療料Ⅰのうち在宅患者訪問診療料Ⅰの実施状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が86.4%と最も高くなっている。「厚生労働大臣が定める疾患等の実施状況」は14.9%となっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「75歳以上」が最も高くなっており、真庭、津山・英田保健医療圏では9割を超えている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	厚生労働大臣が定める疾患等	
							別表第7の実施状況	別表第8の実施状況
全体	20193.6	144	231	675	957	16388.6	1367	2039
県南東部	10396.6	47	96	412	466	8065.6	830	1095
県南西部	7132	95	132	212	390	5966	389	702
高梁・新見	238	2	—	5	9	167	7	12
真庭	166	—	—	—	4	142	18	3
津山・英田	2261	—	3	46	88	2048	123	227

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が81.2%と最も高くなっている。「厚生労働大臣が定める疾患等の実施状況」は16.9%となっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「75歳以上」が最も高くなっており、津山・英田保健医療圏で約9割、県南東部、高梁・新見保健医療圏で7割台となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	229	308	1773	1945	2012	1727	1309
県南東部	112	149	886	978	1073	973	742
県南西部	87	133	610	691	715	550	411
高梁・新見	1	4	18	38	27	12	7
真庭	10	4	37	25	20	16	8
津山・英田	19	18	222	213	177	176	141

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要介護3」が21.6%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部、県南西部保健医療圏で「要介護3」が2割台前半、高梁・新見保健医療圏で「要介護2」が3割台半ば、真庭保健医療圏で「要介護1」が約3割、津山・英田保健医療圏で「要介護1」が2割台前半となっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	343	502	2906.25	3338.5	3561.6	3094	2356
県南東部	143	228	1330.25	1542.5	1789.6	1669	1327
県南西部	161	235	1141	1359	1372	1051	750
高梁・新見	2	7	28	47	34	18	11
真庭	13	3	36	28	24	23	9
津山・英田	24	29	371	362	342	333	259

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要介護3」が22.1%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部、県南西部保健医療圏で「要介護3」が2割台前半、高梁・新見保健医療圏で「要介護2」が3割台前半、真庭保健医療圏で「要介護1」が2割台後半、津山・英田保健医療圏で「要介護1」が2割台前半となっている。

うち在宅患者訪問診療料 2

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	厚生労働大臣が定める疾患等	
							別表第7の実施状況	別表第8の実施状況
全体	283	1	1	7	26	248	46	22
県南東部	226	1	1	7	21	196	46	22
県南西部	45	-	-	-	2	43	-	-
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	12	-	-	-	3	9	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

在宅患者訪問診療料Ⅰのうち在宅患者訪問診療料2の実施状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が87.6%と最も高くなっている。「厚生労働大臣が定める疾患等の実施状況」は24.0%となっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部保健医療圏で8割台後半、県南西部保健医療圏で9割台半ばとなっている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	厚生労働大臣が定める疾患等	
							別表第7の実施状況	別表第8の実施状況
全体	381	-	-	10	37	311	75	41
県南東部	333	-	-	10	34	293	75	41
県南西部	45	-	-	-	-	9	-	-
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	3	-	-	-	3	9	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が81.6%と最も高くなっている。「厚生労働大臣が定める疾患等の実施状況」は30.4%となっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部保健医療圏で8割台後半となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	-	3	23	39	65	41	22
県南東部	-	2	22	37	64	40	21
県南西部	-	1	1	2	1	1	1
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	-	-	-	-	-	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要介護3」が33.7%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護3」が3割台半ば、県南西部保健医療圏で「要介護2」が2割台後半となっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	-	5	32	52	102	59	32
県南東部	-	4	31	50	101	58	31
県南西部	-	1	1	2	1	1	1
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	-	-	-	-	-	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要介護3」が36.2%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護3」が3割台後半、県南西部保健医療圏で「要介護2」が2割台後半となっている。

<在宅患者訪問診療料Ⅱ 実施状況>

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	厚生労働大臣が定める疾患等	
							別表第7の実施状況	別表第8の実施状況
全体	366.66	0.24	－	1.33	7	356	13.41	27
県南東部	194	－	－	1	4	189	7	16
県南西部	136	－	－	－	3	133	5	10
高梁・新見	2.66	0.24	－	0.33	－	－	0.41	－
真庭	14	－	－	－	－	14	－	－
津山・英田	20	－	－	－	－	20	1	1

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

在宅患者訪問診療料Ⅱの実施状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が97.1%と最も高くなっている。「厚生労働大臣が定める疾患等の実施状況」は11.0%となっている。

保健医療圏別にみると、県南東部、県南西部保健医療圏で「75歳以上」が9割台後半となっている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	厚生労働大臣が定める疾患等	
							別表第7の実施状況	別表第8の実施状況
全体	935.24	－	－	3	16	903	28	65
県南東部	423	－	－	3	11	401	17	43
県南西部	446	－	－	－	5	441	9	19
高梁・新見	5.24	－	－	－	－	－	－	－
真庭	14	－	－	－	－	14	－	－
津山・英田	47	－	－	－	－	47	2	3

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が96.6%と最も高くなっている。「厚生労働大臣が定める疾患等の実施状況」は9.9%となっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部保健医療圏で9割台半ば、県南西部保健医療圏で9割台後半となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	10	13	57	69.16	63.16	64	63.08
県南東部	4	3	36	50	33	34	29
県南西部	2	7	15	13	25	24	30
高梁・新見	-	-	-	0.16	0.16	-	0.08
真庭	2	1	4	3	1	3	-
津山・英田	2	2	2	3	4	3	4

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要介護2」が20.4%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護2」が2割台後半、県南西部保健医療圏で「要介護5」が2割台半ばとなっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	20	29	120	155	176	166	218
県南東部	8	6	77	113	62	83	82
県南西部	8	19	40	37	105	73	124
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	4	4	3	5	9	10	12

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要介護5」が24.7%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護2」が2割台後半、県南西部保健医療圏で「要介護5」が約3割、津山・英田保健医療圏で「要介護5」が2割台半ばとなっている。

<在宅患者訪問診療料Ⅰ・Ⅱ 算定対象者居所>

【居所別】

(人)

保健医療圏	うち介護医療院	うち介護老人保健施設	うち老人ホーム	うち自宅
全体	19	205	5516	4917
県南東部	19	49	3010	2811
県南西部	-	150	1833	1410
高梁・新見	-	6	39	94
真庭	-	-	67	67
津山・英田	-	-	567	535

在宅患者訪問診療料Ⅰ・Ⅱ 算定対象者を居所別にみると、「老人ホーム」が 5516 人と最も多く、次いで「自宅」(4917 人)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「老人ホーム」は県南東部保健医療圏で 3010 人、県南西部保健医療圏で 1833 人、津山・英田保健医療圏で 567 人と最も多くなっており、高梁・新見保健医療圏では「自宅」が 94 人と最も多くなっている。

(6)居宅療養管理指導料算定状況

<居宅療養管理指導料Ⅰ>

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	1696	24	84	1582
県南東部	590	7	31	544
県南西部	919	10	43	868
高梁・新見	9	—	—	9
真庭	43	—	1	42
津山・英田	135	7	9	119

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

居宅療養管理指導料Ⅰの算定状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が93.3%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「75歳以上」が最も高くなっており、真庭保健医療圏で9割台後半、津山・英田保健医療圏で8割台後半となっている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	2676	36	115	2495
県南東部	822	11	32	748
県南西部	1675	18	72	1584
高梁・新見	—	—	—	—
真庭	43	—	2	43
津山・英田	136	7	9	120

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が93.2%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部、県南西部保健医療圏で9割台、津山・英田保健医療圏で8割台後半となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	25	39	367	361	358	290	191
県南東部	8	10	107	111	113	102	75
県南西部	13	26	213	219	213	150	86
高梁・新見	－	－	8	－	－	－	－
真庭	－	－	14	7	8	9	4
津山・英田	4	3	25	24	24	29	26

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要介護1」が22.5%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護2」、「要介護3」が2割台前半、県南西部保健医療圏で「要介護1」、「要介護2」、「要介護3」が2割台前半、真庭保健医療圏で「要介護1」が3割台前半、津山・英田保健医療圏で「要介護4」が2割台前半となっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	36	59	581	589.5	574.6	515	305
県南東部	13	18	174	152.5	159.6	186	119
県南西部	19	38	373	408	383	290	156
高梁・新見	－	－	－	－	－	－	－
真庭	－	－	9	5	8	10	3
津山・英田	4	3	25	24	24	29	27

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要介護2」が22.2%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護1」、「要介護4」が2割台前半、県南西部保健医療圏で「要介護2」が2割台半ば、真庭保健医療圏で「要介護4」が2割台後半、津山・英田保健医療圏で「要介護4」が2割台前半となっている。

<居宅療養管理指導料Ⅱ>

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	5175.5	103	286.08	4623.41
県南東部	3216	65	167	2933
県南西部	1489	37	110	1230
高梁・新見	32.5	－	2.08	30.41
真庭	61	－	1	60
津山・英田	377	1	6	370

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

居宅療養管理指導料Ⅱの算定状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が89.3%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「75歳以上」が最も高くなっており、真庭、津山・英田保健医療圏では9割台後半、県南西部保健医療圏で8割台前半となっている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	9211.5	195	517.08	8199.41
県南東部	5743	120	299	5233
県南西部	2762	73	204	2276
高梁・新見	57.5	－	4.08	53.41
真庭	77	－	2	75
津山・英田	572	2	8	562

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が89.0%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、すべての保健医療圏で「75歳以上」が最も高くなっており、真庭、津山・英田保健医療圏で9割台後半、県南西部保健医療圏で8割台前半となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	12	16.08	913	1,017	1,137.41	1,042	899
県南東部	4	8	532	628	725	680	611
県南西部	6	5	266	282	309	280	230
高梁・新見	－	0.08	10	9	6.41	3	4
真庭	－	－	21	17	12	8	3
津山・英田	2	3	84	81	85	71	51

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要介護3」が22.6%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「要介護3」が2割台前半、県南西部保健医療圏で「要介護3」、「要介護4」が2割台前半、津山・英田保健医療圏で「要介護1」、「要介護2」、「要介護3」が2割台前半、高梁・新見、真庭保健医療圏で「要介護1」が3割台となっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	22	28.08	1538	1782	1982.41	1888	1610
県南東部	6	12	880	1099	1268	1242	1100
県南西部	12	10	486	527	558	522	422
高梁・新見	－	0.08	20	16	10.41	4	7
真庭	－	－	25	21	14	13	4
津山・英田	4	6	127	119	132	107	77

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要介護3」が22.4%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると県南東部保健医療圏で「要介護3」、「要介護4」が2割台前半、県南西部保健医療圏で「要介護3」が2割台前半、津山・英田保健医療圏で「要介護1」、「要介護3」が2割台前半、高梁・新見、真庭保健医療圏で「要介護1」が3割台となっている。

<介護予防居宅療養管理指導料>

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	398	5	22	381
県南東部	276	5	11	272
県南西部	105	—	9	94
高梁・新見	3	—	—	3
真庭	8	—	—	8
津山・英田	6	—	2	4

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

介護予防居宅療養管理指導料の算定状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が95.7%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部保健医療圏で9割台後半、県南西部保健医療圏で約9割となっている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	671	7	38	587
県南東部	461	7	18	404
県南西部	187	—	18	166
高梁・新見	6	—	—	6
真庭	11	—	—	7
津山・英田	6	—	2	4

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が87.5%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部、県南西部保健医療圏で8割台後半となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	117	143	35	15	26	31	27
県南東部	60	70	35	15	26	31	27
県南西部	47	66	-	-	-	-	-
高梁・新見	1	2	-	-	-	-	-
真庭	6	2	-	-	-	-	-
津山・英田	3	3	-	-	-	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要支援2」が36.3%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「要支援2」は県南東部保健医療圏で2割台後半、県南西部保健医療圏で5割台後半となっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	182	247	46	21	44	72	47
県南東部	84	118	46	21	44	72	47
県南西部	84	120	-	-	-	-	-
高梁・新見	2	4	-	-	-	-	-
真庭	9	2	-	-	-	-	-
津山・英田	3	3	-	-	-	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要支援2」が37.5%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「要支援2」は県南東部保健医療圏で2割台後半、県南西部保健医療圏で5割台後半となっている。

<訪問薬剤管理指導>

(R8 年 1 月の 1 ヶ月間)

(回)

保健医療圏	麻薬の投与 (持続注射療法を含む) を依頼した回数	無菌製剤 (TPN輸液を含む) を依頼した回数	小児の薬剤管理指導 を依頼した回数
全体	170	71	1
県南東部	132	19	—
県南西部	38	52	1
高梁・新見	—	—	—
真庭	—	—	—
津山・英田	—	—	—

訪問薬剤管理指導について、「麻薬の投与（持続注射療法を含む）を依頼した回数」は 170 回、「無菌製剤（TPN 輸液を含む）を依頼した回数」が 71 回、「小児の薬剤管理指導を依頼した回数」が 1 回となっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で「麻薬の投与を依頼した回数」は 132 回、県南西部保健医療圏で「麻薬の投与を依頼した回数」は 38 回、「無菌製剤を依頼した回数」が 52 回となっている。

(7)在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料の実施状況

<在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料1>

(R8年1月の1ヶ月間)

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	192	4	11	25	23	129
県南東部	135	—	2	13	19	101
県南西部	53	4	8	10	4	27
高梁・新見	4	—	1	2	—	1
真庭	—	—	—	—	—	—
津山・英田	—	—	—	—	—	—

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料1の実施状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が67.2%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部保健医療圏で7割台半ば、県南西部保健医療圏で約5割となっている。

【延べ回数 年齢階級別】

(回/月)

保健医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	1143	10	64	152	144	773
県南東部	835	—	22	100	127	586
県南西部	297	10	38	49	17	183
高梁・新見	11	—	4	3	—	4
真庭	—	—	—	—	—	—
津山・英田	—	—	—	—	—	—

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が67.6%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「75歳以上」は県南東部保健医療圏で約7割、県南西部保健医療圏で6割台前半となっている。

【実患者数 要介護度別】

(人/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	3	10	27	30	30	31	41
県南東部	3	8	23	26	24	27	28
県南西部	-	2	4	4	6	4	13
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	-	-	-	-	-	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

実患者数を要介護度別にみると、「要介護5」が23.8%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「要介護5」は県南東部保健医療圏で約2割、県南西部保健医療圏で約4割となっている。

【延べ回数 要介護度別】

(回/月)

保健医療圏	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	14	62	143	173	161	196	330
県南東部	14	44	120	144	115	170	254
県南西部	-	18	23	29	46	26	76
高梁・新見	-	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-	-
津山・英田	-	-	-	-	-	-	-

※総数未記入、内訳未記入の回答があるため総数との相違が生じている

延べ回数を要介護度別にみると、「要介護5」が30.6%と最も高くなっている。

保健医療圏別にみると、「要介護5」は県南東部保健医療圏で約3割、県南西部保健医療圏で約3割台半ばとなっている。

<在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料2>

(R8年1月の1ヶ月間)

【実患者数 年齢階級別】

(人/月)

保健 医療圏	総数	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上
全体	9	-	-	-	-	9
県南東部	9	-	-	-	-	9
県南西部	-	-	-	-	-	-
高梁・新見	-	-	-	-	-	-
真庭	-	-	-	-	-	-
津山・英田	-	-	-	-	-	-

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料2の実施状況について、実患者数を年齢階級別にみると、「75歳以上」が9人となっている。

【延べ回数 年齢階級別】

年齢階級別延べ回数への回答はなかった。

【要介護度別】

要介護度別への回答はなかった。

<在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料1・2 算定対象居所>

【居所別】

(人)

保健医療圏	うち介護医療院	うち介護老人保健施設	うち老人ホーム	うち自宅
全体	-	8	9	190
県南東部	-	-	9	137
県南西部	-	8	-	51
高梁・新見	-	-	-	2
真庭	-	-	-	-
津山・英田	-	-	-	-

在宅患者訪問リハビリテーション指導管理料1・2 算定対象者を居所別にみると、「自宅」が190人と最も多くなっている。

保健医療圏別にみると、「自宅」は県南東部保健医療圏で137人、県南西部保健医療圏で51人となっている。

<訪問栄養食事指導>

(R8年1月の1ヶ月間)

(人)

保健医療圏	栄養士に訪問栄養食事指導を依頼した患者数 実人数
全体	184
県南東部	68
県南西部	116
高梁・新見	-
真庭	-
津山・英田	-

「栄養士に訪問栄養食事指導を依頼した患者数」は、184人となっている。

保健医療圏別にみると、県南東部保健医療圏で68人、県南西部保健医療圏で116人となっている。

8 在宅医療を今後更に推進していくための課題

(%)

		人材確保		技術的支援			緊急時・災害時・夜間などへの対応		
		医師の確保	看護師の確保	在宅医療に関する専門的研修の機会を確保	在宅医療に関する他職種との連携の機会を確保	在宅医療の確保に向けた研究	在宅医療の確保に向けた連携の確保	在宅医療の確保に向けた連携の確保	在宅医療の確保に向けた連携の確保
全体 n= 472		58.3	58.1	36.9	30.7	22.2	46.2	42.8	48.5
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	57.4	52.7	34.8	29.3	20.3	47.3	41.8	46.5
	県南西部保健医療圏 n= 133	55.6	62.4	35.3	31.6	25.6	40.6	42.1	46.6
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	65.0	85.0	65.0	40.0	35.0	40.0	35.0	50.0
	真庭保健医療圏 n= 12	50.0	66.7	25.0	25.0	16.7	50.0	41.7	41.7
	津山・英田保健医療圏 n= 51	68.6	60.8	43.1	33.3	19.6	56.9	52.9	64.7
		緊急時・災害時・夜間などへの対応		同職種・多職種の連携					
		在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保
全体 n= 472		19.9	19.5	43.9	35.6	25.2	14.2	16.3	13.6
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	18.0	17.2	41.4	32.0	25.4	12.1	16.0	10.9
	県南西部保健医療圏 n= 133	26.3	24.8	45.1	36.1	21.8	17.3	15.0	15.8
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	15.0	20.0	40.0	45.0	40.0	15.0	15.0	10.0
	真庭保健医療圏 n= 12	16.7	16.7	33.3	41.7	25.0	16.7	25.0	25.0
	津山・英田保健医療圏 n= 51	15.7	17.6	56.9	47.1	27.5	15.7	19.6	19.6
		同職種・多職種の連携		住民への啓発		その他			
		在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保	在宅医療の確保
全体 n= 472		8.9	19.1	20.1	37.9	44.9	57.4	29.2	7.8
保健医療圏別	県南東部保健医療圏 n= 256	6.6	14.5	15.6	38.3	41.0	54.3	25.0	7.0
	県南西部保健医療圏 n= 133	12.0	24.1	25.6	33.8	48.9	61.7	35.3	9.8
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	10.0	40.0	35.0	50.0	60.0	55.0	35.0	5.0
	真庭保健医療圏 n= 12	8.3	33.3	8.3	25.0	41.7	66.7	41.7	-
	津山・英田保健医療圏 n= 51	11.8	17.6	25.5	45.1	49.0	60.8	29.4	9.8

(%)

		その他			無 回 答
		そ 独 の 居 家 族 等 へ の 患 者 と 対 応	家 認 族 知 等 症 へ の 患 者 と そ の	そ の 他	
全体 n= 472		47.2	44.1	3.8	17.4
保 健 医 療 圏 別	県南東部保健医療圏 n= 256	42.6	38.7	3.5	20.3
	県南西部保健医療圏 n= 133	51.9	51.9	3.8	15.0
	高梁・新見保健医療圏 n= 20	75.0	65.0	－	5.0
	真庭保健医療圏 n= 12	50.0	41.7	33.3	8.3
	津山・英田保健医療圏 n= 51	47.1	43.1	－	15.7

在宅医療を今後更に推進していくための課題について、「医師の確保」との回答が58.3%と最も高く、次いで「看護師の確保」(58.1%)、「診療報酬の引き上げ」(57.4%)、「夜間や医師不在時、患者の病状の急変時等における診療の支援を行う医療機関の確保」(48.5%)、「独居高齢者の患者とその家族等への対応」(47.2%)、「24時間対応体制を維持するための連携医療機関の確保」(46.2%)などの順となっている。

保健医療圏別にみると、「医師の確保」との回答は津山・英田保健医療圏で6割台後半、「24時間対応体制を維持するための連携医療機関の確保」との回答は津山・英田保健医療圏で5割台後半、「夜間や医師不在時、患者の病状の急変時等における診療の支援を行う医療機関の確保」との回答は津山・英田保健医療圏で6割台半ば、「病院や診療所との在宅療養患者に関する情報の共有」との回答は津山・英田保健医療圏で5割台後半、「救急搬送時に係る消防機関との連携」との回答は県南西部保健医療圏で2割台半ば、「認知症の患者とその家族等への対応」との回答は県南西部保健医療圏で5割台前半と高くなっている。

<その他の意見>

県南東部保健医療圏	病院	200床以上の病院での在宅医療総診設定の検討。
	無床診療所	コロナ以降も頑張っている内科ほど報われていないと思う。他科に比べて本当に大変なのに理解されていない。24時間365日、在宅患者さんから連絡対応できるようにしておくことの負担がどれだけのものか、国は分かっていない。遠出も1泊旅行などもできません。在宅医療は医師の熱意によるところが大きく、在宅専門クリニック以外での在宅医療の普及は難しい面があります。自分が診ていた患者さんを最期まで可能な範囲で診たいと思うかどうかだと思います。従って増やそうと思って増えるものではありません。
		診療報酬の引き上げなどモチベーションをアップすることが必要。連携のため会議や入力業務などの仕事が増えるのは困る。
		訪問診療専門の医療機関が増えれば、在宅と外来の棲み分けができて理想的だと思う。
		精神疾患は長期治療を要し、その経過中にも再発、再燃を繰り返します。しかし、現状の精神科在宅患者支援管理料は、初回請求日より2年間となり、その後の再発、再燃時に請求できないため利用しにくいものとなっており、良い制度でありながら普及につなげていないものと思われます。是非とも、2年経過後も利用できるよう改定を検討してください。
県南西部保健医療圏	無床診療所	高齢者のみの家庭では生活そのものが困難で在宅生活が続けられないため施設入所せざるを得ない。
		在宅診療を行う事は出来るが、現実には往診専門の医療機関が行なっているので休んでいる状態です。（往診の依頼が有っても救急対応病院へ受診要である。）
		根本的な小児化対策が必要。高齢化した市町村は消滅していく。若者を増やしていく政策が急務。外国人移民を受けいれても日本人は増えない。
真庭保健医療圏	無床診療所	高令者のみの世帯（独居、2人住い）の増加で家庭の介護力が低下し、在宅医療件数は減少しており、今後ますます減少してゆく傾向にあります。
		在宅看取りは、現実的には家族の理解とその家の環境が大きい為、なかなか件数としては進まないと思われます。